

朝倉市

松末復興かわら版

4月16日 杷木地域4会長会議

2018年4月16日(土)朝倉市杷木地域4会長会議
代表伊藤睦人が催された。同会議は昨年の九州北部豪雨後必要に応じて開かれていたが、今回は朝倉市が復興関連の報告に出席したものである。

今回は伊藤 松末、泉、杷木、原田、久喜宮、小江志波の4会長に加え、市から中野副市長、恒吉災害調整官、久保田防災危機調整官、井上都市建設部長、日野都市計画課長、梅田総務課長、二宮防災課長他出席し、①災害公営住宅建設問題 ②自衛隊による流木撤去 ③出水期に向けて避難場所の確認 ④個別避難者支援 ⑤避難基準の見直し等について協議された。なお次回から毎月最終火曜の4地区連合会議に朝倉市が同席して報告する事となる。

出水期対策と自主避難場所

降雨は前年大雨だったから暫くは降らないとならないことに加え、昨年の崩壊箇所の大半が未手当てで崩れやすくなっており昨年より危険度は大きいといえる。この状況を踏まえ指定避難所に加え、各地域に自主避難場所を設け、そこに水食料などの備蓄を行う対策が話し合われた。

朝倉市A)それで、従前の防災マップを国土地理院の、洪水到達範囲などを入れた見直し版として4月5日のコミュニティー事務局長会議で配りました。地域で緊急避難場所を考えていただき、その後市のほうで安全を確認いたしまして見直し版に掲載したいと考えております。久喜宮)朝倉光陽高校は市指定避難所ということでしょうか。

としては避けたい。松末)自主避難場所として入れるのね。副市長)そうせざるを得ないと思えます。滞在型の指定避難所としては、3階を自主避難所として、電源とか水食糧を確保する。緊急逃げ場としてしか難しいかと。松末)保育所は？朝倉市B)保育所も自主避難場所として、あと何日かかる場合ははらぐゆう館にお出でいただく。志波)中町公民館と書いてありますが、朝倉市B)すみません、この施設と書いてあるところは、数年前に被災があったところを載せています。副市長)案が出てきたら、念のために現地を見させて下さい。松末)備蓄品は配置する可能性が高い所です。朝倉市C)孤立する可能性は高い所です。副市長)一泊分持ってくるか？松末)備蓄品に持ってくるって例えばどこからどのくらい持ってくるの？朝倉市B)かんぱんとは缶に入ったパンです。松末)なら自主避難場所には市から備蓄品を運ぶと？朝倉市B)事前に持ってきてます。飲み水と、缶に入ったパン。それを出水期前に、副市長)全てじゃなく、副市長)全てじゃないけど発電機。発電機は孤立可能性が高いところ。副市長)毛布とか

自衛隊による流木撤去

流木撤去で対応できない箇所について地域から市へ自衛隊出動が要望されてきたがその報告が中野副市長よりあった。副市長)今日の時点で自衛隊が協力もらえるかどうかという結論はお待ちしておりますが、ある程度作業やそういったところの用途といえます。区切りができていますので、今日はそのあたりを説明いたしました。自衛隊の出動については三原則があり、緊急性、公共性、非代替性、つまり自衛隊じゃないとできない理由がないと自衛隊は出動できません。そういった中で対象地の絞り込みをやってきました。どういったところに流木土砂が残っているかは、航空写真による手作業でチェックいたしました。16か所抽出いたしました。その定義としては、民家や河川に近く人命に危険を及ぼす可能性のあるところが、16か所だと。それから、あつと皆様方から申請していただいた義援金を使った土砂流木の撤去、あれが確か50から60か所あったと思います。その中から規模が大きすぎて義援金対応が難しい1千万円

はこないの？松末)例えれば池ノ迫公民館を自主避難場所にしたらそこには一日分の備蓄を持つてくるかと。副市長)そこは市が安全性を確認している指定の避難所以外の、自主避難所にもそういう対応をしましょうと、今年の出水期は、でないと逃げ遅れた場合があるから。



災害情報 防災指数 雨量 土壌

避難基準見直し

今しばらくお待ちください。松末)きちんと対応していただいているのは嬉しいです。精神的に全然違います。朝倉市A)河川の氾濫及び土砂災害警戒区域の被災が強く懸念されるため気象情報の中でも大雨に関する情報と土砂災害警戒情報に基づき判断します。松末)大雨注意報は気象庁はどれくらいで出すのか？朝倉市U)注意報は降雨量ではなく、例えば一か月間カラカラの天気でしたら時間40mmでも災害が起きる可能性は低い。これを土壌雨量指数といいますが、朝倉市C)土の中にそれまでに含まれている水分量で降雨に耐えられる時間が変わってきます。一概に時間雨量だけでは注意報は出さないといいことです。それと表面雨量指数の二つで判断しますが、考え方としては土壌雨量指数の中にすでに含まれている水分から逆算してどれくらいの時間雨量が見込まれたら注意報が出すっていうことです。

災害公営住宅建設

2次アンケート結果

3月中旬より始まった被災者世帯への将来の住居などの意向調査の結果について井上都市建設部長より報告があった。実施当初より質問項目について地域から要望が出されていた調査である。4月13日に二次意向調査の結果がでた。仮申し込みは立石の頓田で30世帯、朝倉の中町が7戸、杷木小に52戸。この52戸の中ではできれば松末地区に10戸、久喜宮地区に9戸、志波地区に2戸、ゆきたいと希望が出た。これ以外にも松末にできないと入らないが2世帯、久喜宮にできないと入らないが1世帯ある。今後は、久喜宮小跡地に建設希望の提案、志波地区への3戸の希望があり、協議に入る予定。現在、災害公営住宅の仮申し込みは89戸。松末や久喜宮でなければ入れないを含めると92戸になってきているのは63戸。それから通常の団地の建て替えの中で7戸は吸収できると見込んでいる。既設公営住宅、松末団地が12戸、星丸が8戸あった分の建て替え分については、19戸については、公営住宅の建て替え分の20戸での吸収ができる分と、松末に建てたいという方との20戸が査定を受けているという状況。今後の進め方は、各コミュニティーに調査結果を知らせ、各コミュニティーに災害公営住宅を建てるならば、どの場所を候補地として進めていくのかということを含めて、今後考えられる手続きの対しての予算化、設計期間、久喜宮小の解体期間、それから建設スケジュールを今後示して行きたい。裏に続く

災害公営住宅 第2次意向調査(面談)(H30. 4. 13現在)

建築計画団地	仮入居申込世帯	仮入居申込世帯の内、下記の地域に建築された場合に仮入居を希望する世帯			備考
		松末地区	久喜宮地区	志波地区	
頓田団地(災害公営住宅)	30		2		石の頓田地帯地
中町団地(一般公営住宅=既建設中)	7		1		14戸分が被災世帯用として確保中
杷木団地(災害公営住宅+一般公営住宅:松末団地12戸・星丸団地8戸建替え分)	52	10	9	2	
小計	89	10	11	3	
現在の計画団地(頓田・中町・杷木)には希望しないが、松末・久喜宮・志波に建設された場合には仮入居を希望する世帯	※	※	2	1	※仮入居申込書の提出無し。
合計	※89	12	12	3	※仮入居希望世帯の総数は92戸となる。
災害公営住宅建設希望戸数	63				◎12月査定結果=63戸
一般公営住宅(中町団地活用分)	7				
一般公営住宅(松末団地12戸・星丸団地8戸建替え分)	19		1		◎12月査定結果=20戸
一般公営住宅(不足分)			11	12	3

■災害公営住宅に関する面談による第2次意向調査
(補説1) 表中ほどの※2、※1、※0は該当地区に災害公営住宅は出来た場合のみ入居する人数
(補説2) 仮申し込み人数89名は昨年末の調査より増加している。



松末復興かわら版バックナンバー

